建築学科

工学基礎科目・専門科目

建築学科

主任教授 天野克也

1. 建築学科の特性

本学科は、日本の多くの建築学科と同様に工学部に属している。これは、建築の技術的側面の基礎を工学においてることによる。しかし、建築学の領域を眺めると、それはとてつもなく幅広い学問領域を基礎として成り立っている。即ち、数学、物理学、化学、生物学、地学、天文学などの自然科学と、哲学、言語学、文学、法律学、経済学、社会学、地理学、心理学、歴史学、芸術などの人文・社会科学との一通りの分野からなるといえよう。また、領域が広範であるということ以上に、その学問領域の中核に、人間の生活の場をいかに安全、快適かつ魅力的に、また経済的に創造するかという学術・技術・芸術を総合、表現する行為としてのデザイン分野を有しているところに大きな特徴があり、このことが建築学の大きな魅力となっている。と同時に、それは建築学を修めるプロセスにおいて、まだ二十歳そこそこの経験しかない学生諸君にとっては、時に壁として立ちちはだかることがある。このような特性をもつ建築学を学ぶ心構えとして、第一に、自然科学と人文・社会科学を基礎とする人間としてのできるだけ幅広い視野に立った教養（世界を知り、人生を享受する力）を陶冶し、学術・技術としての工学及び建築学の基礎を修得すること、しかも、単に机で勉強して単位を取得するというのではなく様々な場においてこれを「身につける」こと、第二に、高校時代まで学習した多くの科目と異なりいわゆる正解のないデザインという分野においては（設計科目だけではなく全ての建築専門科目に「デザインする」志向があることに注意すること）建築に対する価値観を自覚して絶えずこれを涵養し、かつ客観的に位置づけ、それを社会に受け入れてもらうように説明する能力を身につけること、が重要であると考え。さらに、たとえ壁が立ちちはだかつて、これに怯むことなく乗り越える気概をもって取り組み、そして楽しむべきことを強調しておきたい。

本学建築学科では、こうした広範囲に亘る領域を対象に 1 年次では主として工学全般に渡る基礎学力を養い、2 年次では建築学の基礎的専門科目を学習し、3 年次後期以降は下記に示す 3 コースのいずれかを選択することにより、専門性を高める教育方針をとっている。

(1) 「建築計画・設計コース」

建築物の計画・設計部門に係わる分野

(2) 「建築工学コース」

材料・工法と構法を取り入れた生産部門に係わる分野，力学を基礎として建物の安全性と機能性を保証する分野，都市環境を含む建築物の機能，環境に係わる分野

(3) 「都市デザインコース」

都市や地域の計画・デザインに係わる分野

しかし，上記3コースのみで関連する建築分野すべてに対処できるわけではなく，常に変化していく社会のニーズに対応できる系列間の連携が不可欠となっていることから，更にきめ細かく科目を設けている。しかし，これら多岐にわたる分野の科目を修得するには，現行の大学4年生制度はあまりにも短い。そのため諸君の努力は大変なものとなることを覚悟しなければならない。

2. 建築学科における学習・教育目標

学群制度の導入により建築学科の専門教育は，主として2年次以降に行われる。従って，1年次においては，自然科学，人文・社会科学，外国語に加えて，建築・都市学群共通の専門科目を総合的に学習し，2年次以降，建築専門科目を体系的に学習する教育方針をとっている。この方針のもとに，人間としての幅広い教養，建築学に係わる総合的な基礎能力及び応用能力を培い，広く社会の発展に貢献できる建築家及び建築技術者を養成することを目標としている。

(A) 社会の発展に貢献できる人材の育成

国際化，少子高齢化，高度情報化，地球環境問題の顕在化，地域社会の希薄化など絶え間なく変化する社会から求められるものを常に自らに問い，建築分野における幅広い活動を通じて社会の持続的発展に貢献できる人材を育成する。

(B) 総合的な建築学の基礎能力の鍛錬

建築計画設計，建築材料工法，建築構造，建築環境設備等の各専門分野にわたる建築学の基礎を，建築設計を中心において総合的に学習し，将来のより専門性の高い分野において学習が展開できる基礎能力を鍛錬する。

(C) 建築学の工学的な基礎知識の修得

建築学の工学的な基礎となる自然科学，情報技術に関する基本的知識を修得する。

(D) 建築学の専門的能力の育成

- ①建築設計，建築・都市計画，建築意匠・歴史に関する専門的能力を育成する。
- ②建築材料，建築構法，建築工法，建築施工に関する専門的能力を育成する。
- ③建築構造，構造力学，構造設計，耐震・耐風工学に関する専門的能力を育成する。
- ④建築環境，建築設備，都市環境に関する専門的能力を育成する。

(E) 総合的な設計能力の育成

地球環境，少子高齢社会，高度情報社会，建築・都市防災など社会的な観点から建築，都市が抱えている現代的な課題を把握し，それに対して建築学の専門知識を総合し，与えられた制約条件の下で計画的に創造性豊かな解決方をまとめ，提案，表現する能力を育成する。

(F) 建築家・建築技術者としての倫理観を有する人材の育成

建築・都市の文化や法律を理解して建築設計等を適切に行うとともに，設計や技術が，人間，社会及び自然環境に与える影響を十分認識し，かつ問題に責任を持って誠実に対応できる専門家としての倫理観を有する人材を育成する。

(G) コミュニケーション能力の育成

第三者に伝えたい内容を論理的に記述し，口頭で発表し，討論することのできるコミュニケーション能力および基礎的な国際的コミュニケーション能力を育成する。

(H) 継続的な専門能力の向上と資格取得のための基礎学習能力の育成

本学科卒業後，生涯にわたり新しい建築学の知識を学習し，継続的な自己啓発ができる能力と建築士や技術士等の資格取得のための基礎学習能力を育成する。

3. 専門科目の履修と卒業研究

建築学科の専門科目等は、大別すると、主として1年次に履修する学群共通の「専門科目」と2年次以降に履修する学科共通の「専門科目」及び各専門コース別の「専門科目」より構成されている。それぞれ卒業のための条件が明記されているので見落としのないように注意が必要である。また、以下の点については特に十分留意して選択してほしい。

- (1) 必修科目は配当年次に取得すること。
- (2) 1年次は「工学基礎科目」を広く履修するとともに学群共通の「専門科目」を履修し、2年次は主として学科共通の「専門科目」を履修する。3年次以降は将来の自らの進路を考え専門コースを適切に選択すること。
- (3) 3年次後期に所属する研究室への仮配属は、2年次までの履修・修得科目の成績が考慮される。
- (4) 3年次終了時の必要修得単位数は100であるが、110単位以上取得しておくことが望ましい。また、3年次への進級にあたり必要修得単位数が60であることに注意し、自ら選んだ各科目を確実に修得することが望ましい。なお、上記は「履修上の注意事項」と重なる部分であるが重要なので補足した。
- (5) 4年次の卒業研究は、本人の適性を含め卒業後の進路を決める重要な科目である。なお、卒業研究は研究室に所属して行うことになるが、その配属は原則として均等割を適用している。

4. 大学院と卒業後

4年間の学部教育の修了後、建築に対する更なる研鑽と高度な知識修得をめざす意欲のある学生のために、本学は大学院を設置し充実させている。建築学専攻の大学院学生数も多い。このことは学部における修学年限の短さと多岐に亘る必要修得科目の多様さが物語っている。また近年の高度な知識を修得した者を求める社会からの強い要請に答えて一層の充実が図られている。現在、その構成は6学科目よりなり、修了者には各々修士、博士の称号が授与される。

5. 一級建築士について

一級建築士試験の受験に当たっては、これまでは本学科を修めて卒業した後、建築に関して2年以上の実務経験を有する者は、受験可能であったが、建築士法の改正にともない、平成21年度入学者からは国土交通大臣の指定する建築に関する科目を修めて卒業したものであって、その卒業後建築に関する実務として国土交通省令で定めるものの経験を2年以上有する者に変更された。

本学科の場合、本学科を修めて卒業することにより、建築実務の経験が2年以上あれば一級建築士試験を受験することが可能となる。また、本学科を修めて卒業することにより、建築実務の経験がなくても、二級建築士試験を受験することが可能となる。

一級建築士試験の「建築実務」経験の要件は、従来は「建築に関する実務」という幅広い要件であったが、建築士法の改正にともない、設計・工事監理に必要な知識・能力を得られる実務に限定した要件に変更された。具体的には、「建築士法第14条第一号及び第四号の国土交通省令で定める建築に関する実務(建築実務)」に示されているが、概括的にみれば、①建築物の設計に関する実務、②建築物の工事監理に関する実務、③建築工事の指導監督に関する実務、④工事施工の技術上の管理に関する実務、⑤建築確認等の審査に関する実務、⑥建築物の耐震診断に関する実務、⑦大学院教育課程による実務、があげられる。

このうち⑦の大学院教育課程による実務とは、大学院において、建築物の設計又は工事監理にかかる実践的な能力を培うことを目的として建築士事務所等で行う実務実習(インターンシップ)及びインターンシップに関連して必要となる科目の所定の単位数(30単位以上又は15単位以上)を修得した場合に実務の経験とみなされる2年又は1年の実務のことである。

本学大学院の場合、博士前期課程(修士課程)の授業科目の中で、「インターンシップ及びこれに関連して必要となる科目」の単位修得により、一級建築士試験の大学院における実務経験年数1年または2年が認定される。1年の認定がされた場合、大学院修了後、1年間以上の「設計・工事監理に必要な知識・能力を得られる実務」を経た上で、一級建築士試験の受験資格を取得することができる。2年の認定がされた場合、大学院修了後すぐに一級建築士試験の受験資格を取得することができる。

6. おわりに

建築を学ぼうとする諸君は、まず、国際化、少子高齢化、高度情報化、地球環境問題の顕在化、地域社会の希薄化など絶え間なく変化する社会から求められるものは何かを自らに問い、この4年間を、建築を通しての新しい時代への準備期間として捉え、日々の学生生活を真摯に、そして積極的に過してほしい。従来までのような与えられた教育、授業ではなく、常に自ら求める姿勢がなければ何事も得られない。教師は君達の身近に居る。諸君は大いに大学生に与えられた時間と機会を利用すべきである。

区 科 目 分 群	授 業 科 目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								担 当 者 (平成22年度現在)	
				1年		2年		3年		4年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
工 学 基 礎 科 目	数学基礎		0	2								古田,岡(康),上江洲,新海,加納	
	微分積分学(1)	○	2	2	(2)							山澤,藤田,上江洲	
	微分積分学(2)	○	2		2	(2)						佐藤,山澤,藤田	
	線形代数学(1)	○	2	2	(2)							知沢,友延,川島	
	線形代数学(2)	○	2		2	(2)						知沢,友延,加納	
	微分方程式論	△	2			2						末政直晃	
	ベクトル解析学	△	2			2						白旗弘実	
	フーリエ解析学	△	2				2					佐藤ンツ子	
	関数論	△	2				2					吉野邦生	
	数理統計学	△	2			2						吉田郁政	
	物理学基礎		0	2								奥田隆,中澤直仁	
	物理学(1)	○	4	4	(4)							中村正人,奥田隆	
	物理学(2)		4		4							中村正人	
	物理学(3)		2			2						岩松雅夫	
	現代物理学		2				2					長田剛	
	物理学実験	○	2	4	(4)							物理学教室	
	化学基礎		0	2								大町忠敏,蛙原絹子	
	化学(1)		2	2								高砂子昌久	
	化学(2)		2		2							高砂子昌久	
	化学(3)		2			2						吉田真史,堀越篤史	
	化学(4)		2				2					吉田真史,倉田薫子	
	化学実験		2	(4)	4							化学教室	
	生物学(1)		2			2						倉田薫子,他	
	生物学(2)		2				2					倉田薫子,他	
	生物学実験		2			4	(4)					倉田,森部,向坂,宮崎	
	地学(1)		2			2						萩谷宏,他	
	地学(2)		2				2					萩谷宏	
	地学実験		2			(4)	4					萩谷,大石,大橋(智),ジェンキンス	
	情報系	情報リテラシー	○	2	2								松山,山口,安井
		コンピュータ概論		2		2							安井浩之
プログラミング基礎			2		2							山口勝己,荒木一	
数値解析			2			2						松山実	
情報処理技術			2					2				安井浩之	
工学教養系	工学リテラシー		2	2								未定	
	技術日本語表現技法	○	2		2							小林,勝又,小見,大村	
	技術者倫理	○	2					2				勝又英明	
	環境概論		2	2								萩谷宏,他	
	環境と社会		2		2							堀内,萩谷,堀越,倉田	
	科学技術史		2		2							吉田真史,堂前雅史	
	インターンシップ		2									教務委員	
	海外体験実習(1)		2									萩谷,倉田,皆川	
	海外体験実習(2)		2									萩谷,倉田,皆川	
	科学体験教材開発		2	2								皆川,大上,岩崎(敬),中村(正)	
科学体験教室実習		1									皆川勝		

区 科 目 分 群	授 業 科 目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								担 当 者 (平成22年度現在)
				1年		2年		3年		4年		
				前	後	前	後	前	後	前	後	
学 群 共 通	図学	○	1	2								手塚, 中村, 石田
	設計基礎 (1)	○	1	2								天野, 勝又, 中村, 石田
	設計基礎 (2)	○	3		6							天野, 山口, 小林, 長谷川, 佐々木
	都市論	○	2	2								天野, 住吉, 中村(隆)
	建築・都市環境論		2		2							濱本卓司, 他
学 科 共 通	測量学及び実習 (1)	△3	3			4						松浦弦三郎
	測量学及び実習 (2)		3				4					皆川勝
	設計 (1)	○	4			8						勝又, 豊田, 長谷川, 大蔵, 佐々木, 桑原
	設計 (2)	○	4				8					手塚, 小辻, 山岡, 白鳥, 未定
	建築史 (1)	△1	2			2						岡田和正
	建築計画 (1)	○	2			2						天野克也
	建築計画 (2)	○	2				2					山口勝己
	建築材料	○	2			2						佐藤幸恵
	建築工法計画	○	2				2					小見康夫
	建築構法基礎	○	2			2						大橋好光
	建築構造力学 (1) 及び演習	○	3	4								濱本卓司
	建築構造力学 (2) 及び演習	○	3		4							西村功
	建築環境工学 (1)	○	2			2						小林茂雄, 岩下剛
	建築環境工学 (2)	○	2				2					近藤靖史
	建築設備学基礎	○	2				2					近藤靖史, 市川憲良
	建築 CAD 演習	△3	2					4				山口勝己
	建築実験	△3	2						4			大橋, 西村, 岩下, 佐藤(幸)
	建築防災計画	△3	2							2		安井昇
	建築総合演習	○	1							2		勝又, 近藤, 小林, 大村, 未定
	特別講義 (1) 建築の実務		2									天野克也, 勝又英明
特別講義 (2) 建築のスケッチ		2	2								白鳥健二	
特別講義 (3)												
建 築 工 学	建築施工法	△3	2					2				黒田早苗
	木質構造	△2	2				2					大橋好光
	材料工法演習 (1)	△3	2					4				小見康夫, 福濱嘉宏
	材料工法演習 (2)	△3	2						4			佐藤幸恵
	建築生産管理	○	2					2				小見康夫
	建築構造力学 (3)	△3	2			2						濱本卓司
	建築構造力学 (4)	△3	2				2					西村功
	鉄筋コンクリート構造	△2	2				2					大村哲矢
	鉄骨構造	△2	2					2				西村功
	建築構造計画	△3	2				2					岡本隆之祐
	地盤と基礎	△3	2					2				山田眞
	耐震・耐風構造	△3	2						2			濱本卓司
	建築構造設計	△3	2							2		大村哲矢
	建築環境工学 (3)	△3	2					2				岩下剛, 小林茂雄
	建築設備学	△3	2					2				近藤靖史, 市川憲良
	建築設備学応用	△3	2						2			松下進, 谷津和久
	建築音響学	△3	2					2				杉野潔
建築工学モデリング	△3	2					2				濱本卓司, 他	

1. 1～2年の学修に関して

- (1) 1年生は、工学基礎科目を幅広く修得することを心がける。また、1年次で履修すべき学群共通「専門科目」は1年次で確実に単位を取得すること。
- (2) 2年生は建築全般を幅広く学修することを心がける。特に建築学科共通の「専門科目」は建築専門のコア科目として位置づけられているので、確実に単位を取得するようにすること。
- (3) 1年次の終了時には、微分積分学(1)および(2)、線形代数学(1)および(2)、物理学(1)、物理学実験、情報リテラシー、技術日本語表現技法、図学、設計基礎(1)、設計基礎(2)、都市論、建築構造力学(1)及び演習および(2)及び演習の各科目を修得していること。
- (4) 2年次の終了時には、設計(1)および(2)、建築史(1)および(2)、建築計画(1)および(2)、建築環境工学(1)および(2)、建築設備学基礎、建築材料、建築工法計画、建築構法基礎、建築総合演習、の各科目を修得していることを強く勧める。
- (5) 3年次への進級に際し、最低60単位を取得することが義務付けられている。2年次終了時点での取得単位数がこれに満たない場合は、3年次に進級できない。
- (6) 番号の付してある科目〔例：建築構造力学(1)及び演習〕は原則として若い番号を先に履修すること。
- (7) 各年度に準備された必修科目はその年度において取得することが望ましい。特に「建築構造力学(1)及び演習、(2)及び演習」は1年次において取得するように最大の努力をすること。これらの単位を未修得の場合、以後の学修計画に差し支えるので十分に注意すること。
- (8) 「物理学実験」について
工学基礎科目の「物理学(1)」及び「物理学実験」の両科目は必修科目である。なお、両科目とも実験室の収容力の都合により、1年次において取得すること。

2. 3年の学修に関して

- (1) 3年前期終了後に、卒業研究を行う研究室への仮配属が行われる。研究室への仮配属は本人の希望を優先するが、希望する人数が研究室の定員を超えた場合は、3年前期終了時点での成績により上位の者から仮配属研究室を決定する。
- (2) 建築学科では、より専門的な学習を系統的に行えるように専門分野に応じたコース別のカリキュラムを用意している。主コース・副コース制度、ならびにコース別のカリキュラムについては、学修要覧のコース制の欄を参照すること。
- (3) 3年次の専門科目の履修に際しては、配属を希望する研究室が専門とする分野の「主コース」が指定している「コース指定科目」の単位を取得し、卒業時には建築学科の「主コース」を修了することが望ましい。
- (4) 3年後期に開講される、「事例研究」を必ず履修すること。この科目では、3年後期に仮配属された研究室で4年進級後に卒業研究を行うために必要な事柄を少人数で学習する。授業の形態は各指導教員により様々であり、卒業研究に必須の基礎知識を習得することが目的である。研究室仮配属の手続きを怠った者は、「事例研究」を履修できないので留意すること。仮配属方法の詳細は3年前期の適切な時機に掲示等で連絡する。

3. 4年の学修に関して

- (1) 4年次への進級条件は、卒業研究着手条件と等しい。従って、卒業研究着手条件を満たさない者は、4年次へ進級できないので注意すること。4年次へ進級できなかった者は研究室仮配属が取り消され、再度、仮配属の手続きをしなければならない。卒業研究着手条件は、「5. 卒業要件および卒業研究着手の条件」を参照すること。
- (2) 4年次への進級条件が満たされたものは、仮配属された研究室への正式配属が決定し、卒業研究を開始する。
- (3) 卒業研究には、卒業設計と卒業論文の2つがあり、どちらか一つを選択するか、または、両方を行うことも可能である。詳細については、4年次の適切な時機に掲示などで連絡する。
- (4) 卒業に必要な単位は124単位であり、「5. 卒業要件および卒業研究着手の条件」を参照すること。

4. 他学科・他学部・他大学の科目の履修について

他学科・他学部・他大学の科目を履修したい場合は、「履修要綱」を参照し、建築学科における履修科目とのバランスを考えながら、効果的に履修すること。

5. 卒業要件および卒業研究着手の条件

建築学科の卒業要件および卒業研究着手の条件は、以下の通りである。

		卒業要件		卒業研究着手条件	
総単位数		124単位 (ただし、下記の各要件を含むこと)		100単位 (ただし、下記の各要件を含むこと)	
共通分野	合計	20単位		20単位	
	教養科目	10単位		10単位	
	外国語科目	8単位	以下を含むこと ○必修科目 6単位	8単位	以下を含むこと ○必修科目 6単位
	体育科目	2単位	必修科目(○)であること	2単位	必修科目(○)であること
専門分野	合計	99単位		80単位	
	工学基礎科目	30単位	以下を含むこと ○必修科目 20単位 △選択必修科目 2単位	以下を含むこと ○必修科目 20単位	
	専門科目	69単位	以下を含むこと ○必修科目 50単位 △1 選択必修科目 2単位 △2 選択必修科目 2単位 △3 選択必修科目 15単位	「卒業研究」において、卒業設計を行う者は、原則として「図学」「設計基礎(1)及び(2)」「設計(1),(2),(3),(4)」の単位を取得済みで、かつ「設計(5)」を履修することが必要である。	

6. 職業分野と学習の関連性

- (1) 就職先の分野は大別すると設計、構造、施工、設備、その他に分けられる。
- (2) 設計方面を志望する者は、設計 (1)～(5) を修得すること。推薦順位は設計科目の成績で決まることが多い。
- (3) 構造、施工、設備のいずれの分野を志望する者も、その専門分野に関係する科目を出来るだけ受講しておくこと。
- (4) 求人企業に対する推薦は3年次前期までの成績順位を考慮して行う。
- (5) 何れの分野においても最近では国際的な仕事や交流が増えているところから、外国語の修得に心掛けることが望ましい。

7. 大学院志望者へ

現在、産業界全般において修士修了者を歓迎する傾向がある。近い将来、企業の中堅以上の技術者は大学院修了者（修士または博士）の時代になると予想されるので、勉学に精励し意欲をもって進学を志望されたい。

- (1) 本学建築学科の大学院建築学専攻は博士前期課程2年及び博士後期課程3年からなり、平成22年4月現在次の学科目に分かれている。

博士前期課程：建築計画(勝又教授)、建築設計(住吉教授、新居教授、手塚教授)、住環境計画(天野教授)、
建築構造学(濱本教授、西村教授)、建築材料工法(大橋教授、小見准教授)、
建築環境設備学(近藤教授、岩下教授、小林(茂)准教授)

博士後期課程：建築計画(勝又教授)、建築設計(住吉教授)、住環境計画(天野教授)、建築構造学(濱本教授、西村教授)、

建築材料工法(大橋教授、小見准教授)、建築環境設備(近藤教授、岩下教授、小林(茂)准教授)

質問は上記教員まで。

- (2) 大学院を目指す学生は、下記の注意に従って初学年から努力することが望ましい。
 - ・建築計画設計系：建築計画関連・設計の諸科目及び外国語と教養科目を可能な限り多く修得すること。
 - ・建築環境設備系：建築環境工学、建築設備学、等を含めて可能な限り多くの関連科目を修得すること。
 - ・建築構造系：建築構造力学(1)～(4)を中心として、構造全般ならびに建築全般に関心を持って修得すること。
 - ・建築材料工法系：建築材料・構法・工法系、生産経済・管理技術系などのうち、どの方面の研究を行いたいかわれに関連する科目を十分学習しておくこと。

建築学科 工学基礎科目 系統図

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
工学基礎科目 (自然科学)							
物理学(1)	物理学(2)	物理学(3)	現代物理学				
物理学実験							
化学(1)	化学(2)	化学(3)	化学(4)				
	化学実験						
		生物学(1)	生物学(2)				
		生物学実験					
		地学(1)	地学(2)				
			地学実験				
工学基礎科目 (情報系, 工学 教養系)							
情報 リテラシー	技術日本語 表現技法					技術者倫理	
工学 リテラシー	コンピュータ 概論	数値解析					
	プログラ ミング基礎					情報処理技術	
環境概論	環境と社会						
	科学技術史						
工学基礎科目 (数学)							
微分積分学 (1)	微分積分学 (2)	微分方程式論					
線形代数学 (1)	線形代数学 (2)	ベクトル 解析学	フーリエ 解析学				
		数理統計学	関数論				
凡例	必修科目	選択必修科目					

建築学科 専門科目（学群共通，学科共通，各コース別） 系統図

		1 年		2 年		3 年		4 年		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門科目（学群共通）										
		図学								
		設計基礎(1)	設計基礎(2)							
		都市論	建築・都市環境論	測量学及び実習(1)	測量学及び実習(2)					
専門科目（学科共通）										
				設計(1)	設計(2)	建築CAD演習				
				建築史(1)						
				建築計画(1)	建築計画(2)					
				建築材料	建築工法計画	建築防災計画				
				建築構法基礎	建築設備学基礎	建築実験	建築総合演習			
				建築環境工学(1)	建築環境工学(2)					
建築構造力学 (1)及び演習		建築構造力学 (2)及び演習						事例研究	卒業研究	卒業研究
専門科目（建築計画・設計）										
						設計(3)	設計(4)	設計(5)		
				建築史(2)	インテリアデザイン	建築意匠論				
専門科目（建築工学）										
				木質構造	建築施工法					
						材料工法演習 (1)	材料工法演習 (2)			
				建築構造計画	地盤と基礎	建築生産管理				
建築構造力学 (3)		建築構造力学 (4)								
				鉄筋コンクリート構造	鉄骨構造	耐震・耐風構造	建築構造設計			
						建築環境工学 (3)				
						建築設備学	建築設備学 応用			
						建築音響学				
						建築工学モデリング				
専門科目（都市デザイン）										
		都市計画史		都市計画(1)	都市計画(2)	都市デザイン				
						都市交通計画	都市地域分析			
						インフラデザイン	ランドスケープデザイン			
凡例										
		必修科目		選択必修科目						

区 科 目 分 群	授 業 科 目	学習・教育目標							
		社会	建築学の基 礎	工学的な基 礎	建築学の専 門	設計	倫理観	コミュニケ ーション	基礎 学力
		A	B	C	D	E	F	G	H
共 通 分 野	教養科目	教養科目(1)	○						○
		教養科目(2)	○						○
		教養科目(3)	○						○
		教養科目(4)	○						○
		教養科目(5)	○						○
		教養科目(6)	○						○
	体育	基礎体育(1)	○						
		基礎体育(2)	○						
	外国語	Study Skills						◎	
		Communication Skills(1)						◎	
		Communication Skills(2)						◎	
		Reading and Writing(1)						◎	
		Reading and Writing(2)						◎	
		TOEIC Preparation						◎	
工 学 基 礎 科	数学系	数学基礎			○				
		微分積分学(1)			◎				○
		微分積分学(2)			◎				○
		線形代数学(1)			◎				○
		線形代数学(2)			◎				○
		微分方程式論			○				
		ベクトル解析学			○				
		フーリエ解析学			○				
		関数論			○				
		数理統計学			○				
	自然科学系	物理学基礎			○				
		物理学(1)			◎				○
		物理学(2)			○				
		物理学(3)			○				
		現代物理学			○				
		物理学実験			◎				○
		化学基礎			○				
		化学(1)			○				
		化学(2)			○				
		化学(3)			○				
化学(4)			○						
化学実験			○						
生物学(1)			○						
生物学(2)			○						
生物学実験			○						

区 科 目 分 群	授 業 科 目	学 習 ・ 教 育 目 標							
		社会	建築学の基礎	工学的な基礎	建築学の専門	設計	倫理観	コミュニケーション	基礎学力
		A	B	C	D	E	F	G	H
工 学 基 礎 科	自然科学系	地学（1）			○				
		地学（2）			○				
		地学実験			○				
	情報系	情報リテラシー	○		◎				
		コンピュータ概論			○				○
		プログラミング基礎			○				
		数値解析			○				
	工学教養系	情報処理技術			○				
		工学リテラシー			○				
		技術日本語表現技法	◎					◎	◎
		技術者倫理		○				◎	
		環境概論						○	
		環境と社会						○	
		科学技術史			○				
		インターンシップ	○						○
		海外体験実習（1）			○			○	
		海外体験実習（2）			○			○	
		科学体験教材開発			○			○	
		科学体験教室実習			○			○	
専 門 科 目	学群共通	図学		◎			◎		
		設計基礎(1)		◎			◎	◎	○
		設計基礎(2)		◎			◎	◎	○
		都市論		◎					
		建築・都市環境論		○					
	学科共通	測量学及び実習（1）		◎					
		測量学及び実習（2）		○					
		設計（1）		◎			◎	◎	○
		設計（2）		◎			◎	◎	○
		建築史（1）		◎					○
		建築計画（1）		◎					○
		建築計画（2）		◎					○
		建築材料		◎					○
		建築工法計画		◎					○
		建築構法基礎		◎					○
		建築構造力学（1）及び演習		◎					○
		建築構造力学（2）及び演習		◎					○
		建築環境工学（1）		◎					○
		建築環境工学（2）		◎					○
		建築設備学基礎		◎					○
		建築CAD演習				◎	○		
		建築実験		◎					○
		建築防災計画				◎			
		建築総合演習		◎					◎
		特別講義（1）建築の実務	○	○				○	
	特別講義（2）建築のスケッチ				○				
	特別講義（3）								

区分	科目群	授 業 科 目	学習・教育目標							
			社会	建築学の基礎	工学的な基礎	建築学の専門	設計	倫理観	コミュニケーション	基礎学力
			A	B	C	D	E	F	G	H
専 門 科 目	建築工学	建築施工法				◎				
		木質構造				◎				
		材料工法演習（１）				◎	○			
		材料工法演習（２）				◎	○			
		建築生産管理				◎				
		建築構造力学（３）				◎				
		建築構造力学（４）				◎				
		鉄筋コンクリート構造				◎				
		鉄骨構造				◎				
		建築構造計画				◎				
		地盤と基礎				◎				
		耐震・耐風構造				◎				
		建築構造設計				◎	○			
		建築環境工学（３）				◎				
		建築設備学				◎				
		建築設備学応用				◎				
	建築音響学				◎					
	建築工学モデリング				◎					
	建築計画・設計	設計（３）				◎	◎		○	
		設計（４）				◎	◎		○	
		設計（５）				◎	◎		○	
		建築史（２）				◎				
		建築意匠論	○			◎				
		インテリアデザイン				◎				
	都市デザイン	都市計画史				◎				
		都市計画（１）		◎						○
		都市計画（２）				◎				
		都市交通計画				◎				
		都市・地域分析				◎				
		都市デザイン				◎				
ランドスケープデザイン					◎					
インフラデザイン					◎					
	事例研究				◎			○		
	卒業研究	◎			◎	○		○		

「建築学科における学習・教育目標」と各授業科目の内容がどのように関連するのかが示したのが前記の表である。関連の程度は、◎が関連の程度が強いことを示し、○は関連の程度は比較的強いことを示している。空欄は関連の程度が比較的弱いことを示している。